伝統あるＪＲ総連運動を汚さないために、真実を明らかにする！

“過ちては改むるに憚ること勿れ”・No.２

現在、ＪＲ総連は、会社やＪＲ連合と歩調を合わせたかのように、ＪＲ東海労、新幹線関西地本、ＪＳ労を「認めない、許さない、組織破壊行為、通敵行為」などと叫んでいます。

そして一日も早くＪＲ総連から私たちを追い出そうと必死になっています。

彼らのやり方は一貫しています。

①嘘の報告を上げさせる。
②組織破壊行為・組織破壊者をでっちあげる。
③なぜ組織破壊行為をやったのかの「聞き取り」をやる。
④「組織破壊行為・組織破壊者をでっちあげたうえでの聞き取りなど必要ない。」というお断りを「取り調べを拒否したと判断します。」と一方的に決めつける。
⑤こうやって、相手の言い分など一切聞かず、嘘の報告に基づいた排除の理由をでっち上げる。

というものです。

１月２６日、ＪＲ東海労本部と各地方本部に、ＪＲ総連近畿地方協議会議長　津崎修さん名で郵送物が届きました。（別紙１を参照）

郵送物の中身は、２０２３年１１月２７日に津崎さんが作成された報告書です。

報告書の内容は嘘だらけです。

例えば、
①定期委員会終了後、緊急に常任委員会を開催し、定期委員会の中間総括を図った。
②近畿地協として、渡邊発言は定期委員会を混乱させた「組織破壊攻撃」と確認する。
以上を各常任委員も了解した。

この嘘だらけの報告書に基づいて、ＪＲ総連が組織破壊行為と組織破壊者をでっちあげたということです。ところが、この嘘が録音の存在で、ばれてしまったのです。

それで、「１１月２６日の定期委員会後の打合せで、津崎議長が組織破壊攻撃を確認したと言っていましたが、組織破壊攻撃は無かったことを出席した常任委員全員で確認しました。津崎議長の１１月２６日の組織破壊攻撃の確認は撤回します。申し訳ありませんでした。謝罪しお詫び申し上げます。」と謝罪したのです。（注：この報告文書は、津崎議長本人が「津崎議長が組織破壊攻撃を確認したと言っていましたが」とか「津崎議長の１１月２６日の組織破壊攻撃の確認は撤回します。」というおかしな文章ですが。）

それでも私たちをＪＲ総連から追い出したい彼らが今、「公になっていない９．８緊急声明をＨＰに出したのはけしからん」「早く削除しろ」等と大合唱しているのです。ＪＲ総連は、９．８緊急声明について、「トーンが高かったから」とか「検討中」とか「未完」だとか必死になって言い訳をしていますが、嘘を言ってはダメです！事実があまりにも出鱈目で、本音が出すぎていたから公にできなかったんです。だから内容を薄めて、トーンダウンして、「９．１３見解」に書き替えたんです。だから近畿地協定期委員会で、熊谷書記長は渡邊委員からの「９．８緊急声明に書かれている、これが本心なのか？今でもそう思っているのか？」

という質問に答えられなかったんです。それで、これを隠すために、定期委員会が終了した半月も後になって、「許可なく民主化闘争情報と９．８緊急声明を配ったことは組織破壊行為だ」などと言い出したんです。

　それだけではありません。地協の最高決定機関は定期委員会です。その委員会の議長は、津崎議長ではなくて、山本真治さんでした。その山本議長に何の確認もなく、「定期委員会で組織破壊行為があった」などと言って、規約・規則を無視して、いたずらに組合員を騙し、一部の者をパージしようとしているのです。（別紙２を参照）

　まさしく組織破壊行為であることを自覚するべきです。

　私たちは彼らに、“過ちては改むるに憚ること勿れ”を願うばかりです。

　私たちはこれからも、全国の皆さんに真実を伝えていきます。

以上